



みんなが住みよい 選ばれるまち おとふけ 音更町



音更町基礎データ

総人口	42,683人 (R6年12月末現在)	製造品出荷額	8,503,732百万円 (R2経済センサス)
高齢人口 (高齢化率)	12,942人 30.3% (R6年12月末現在)	卸・小売年間販売額	84,697百万円 (R3経済センサス)
世帯数	20,981世帯 (R6年12月末現在)	一般会計規模	23,448,000千円 (R6当初予算)
人口密度	92.50人/km ²	町の木	白樺
面積	466.02km ²	町の花	スズラン
農業産出額	29,213百万円 (R5市町村別農業産出額)		

音更町の紹介

音更町は北海道の東部、十勝平野のほぼ中央に位置し、南は帯広市と幕別町、北は士幌町、西は鹿追町と芽室町、東は池田町に隣接しています。地形は東部の丘陵地帯を除きおおむね平坦で、南端を西から東へ流れる十勝川を始め、町内の北から南に縦貫する然別川、音更川、士幌川の4つの河川が大地に豊かな恵みをもたらし、年間日照時間が長いことなどから、道内屈指の穀倉地帯となっています。また、十勝川のほとりには「十勝川温泉」があり、この温泉は世界でも珍しい植物性モール温泉で、別名「美人の湯」と言われるほど良質な湯が魅力です。平成16年11月には北海道遺産に指定されました。日高山脈を望む美しい自然環境に恵まれ、四季折々の景色や景観を楽しむため毎年多くの観光客で賑わいます。交通利便性がとても良く、町を南北に縦断する国道241号は、道央・道北・道東の主要各都市を結ぶハブとなっています。また北海道横断自動車道「音更帯広インターチェンジ」があり、札幌市や釧路市などへのアクセスも抜群です。インターチェンジに隣接する区域に音更町IC工業団地を整備し、道央圏

と道東圏との物流中継地点となっています。本町は、明治13年に岩手県人の大川宇八郎が定住したことを機に入植者が増え、明治34年音更ほか2村に戸長役場が開設。その後、2級村、1級村を経て昭和28年に町制が施行されました。令和2年には開町120年を迎えています。昭和40年代から宅地開発が積極的に行われ、帯広市に隣接しているという地理的優位性もあり順調に人口も増加。市街地には、大型商業施設や医療機関など生活に必要な環境が整っており、豊かな自然と快適な都市空間が調和した、全道一の人口を有する町に発展しています。

音更町の見どころ

●農業のまちにふさわしいスケール

恵まれた水利による肥沃な土壌や年間日照時間が長いことなど農業経営を行う上での地形的、気候的条件に恵まれています。この恵まれた諸条件を生かし、約23,000ヘクタールの広大な農地で、大地に育まれた農業が基幹産業で、より優れた品質と生産性の高い農業経営を目指して、土地基盤の整備や農業技術の普及向上を図っており、大型農業機械によ

る大規模土地利用型農業を展開しています。なかでも畑作では小麦、小豆、大豆などが作付面積、収穫量、生産量ともに全国トップクラスを誇っています。小豆はその品質の良さから全国の老舗和菓子店で使用されているほか、「音更大袖振大豆」は一般的な大豆より甘みがあることから、豆腐や豆菓子の原料として高い評価を得ています。また、酪農や畜産業も盛んに行われており、町内には日本でも有数の規模を誇る家畜改良センター十勝牧場があります。「音更町すずらん和牛」が肥育されているのも特徴で、ブランド確立に向けたPR活動も積極的に行われています。その他、チーズやバターなどの乳製品もふるさと納税の返礼品として人気です。



小麦の収穫風景

● 2つの道の駅を巡る

令和4年4月に移転開業した道の駅おとふけは、北海道横断自動車道「音更帯広インターチェンジ」近くに位置し、地元の農畜産物を使ったメニューが楽しめる飲食店、音更町をはじめ十勝管内の地場産品や地元の生産者の直売コーナーなど豊富な品揃えが楽しめる農畜産物などの販売所「なつぞら市場」、NHK連続テレビ小説「なつぞら」十勝編の主要なセットを再現し、ドラマの世界観が楽しめる「なつぞらエリア」などを擁し、移転開業して以来、「十勝の玄関口」、「食の聖地」といったコンセプトが支持され、令和6年5月に累計来場者が300万人を達成しまし

た。また、ドッグラン、都市間バスなどの乗降所・利用者駐車場を併設した公園があり、イベントの開催場所として活用されるなど、賑わいの拠点となっています。

町内2つ目の道の駅は十勝川温泉街の中心地にある「道の駅ガーデンスパ十勝川温泉」で、水着や湯あみ着を着用して家族や友達とモール温泉が楽しめるスパを併設しています。スパのほかにも十勝の食を味わえる飲食店や農産物、特産品を販売するマルシェ、体験工房が揃う癒しの施設として多くの観光客が利用しています。こちらも令和6年9月に累計来場者が150万人を達成しました。2つの道の駅を巡って十勝を、そして音更を味わってみませんか？



道の駅おとふけ なつぞらのふる里



道の駅ガーデンスパ十勝川温泉

● 昭和商学校Paletteで地域共創

令和2年に閉校となった旧昭和小学校をリノベーションし、サテライトオフィスやコワーキングスペースとしての機能を持たせ、都市部にいるときと遜色のない仕事ができる

よう環境を整備し、産業振興や人材育成などを行うビジネス創出拠点として、令和5年4月から昭和商学校Palette（パレット）を供用開始しています。十勝・音更の豊富な食材を活かして、新商品の開発や起業を支援するため、「シェアキッチン」も設置しており、供用開始以降、利用者の中から18人が起業しています（令和7年1月末現在）。また、町と小樽商科大学は、産業振興や地域づくり、教育・文化振興など、幅広い分野で連携・協力してまちづくりに取り組むことを目的とした包括連携協定を令和4年8月に締結したことに伴い、持続可能な地域社会の発展や人材育成、雇用創出の促進を図るため、昭和商学校Paletteに大学の分室「音更サテライト」を令和5年4月に設置しています。

今後はサテライトオフィスへの企業誘致を積極的に行うと同時に、コワーキングスペースやシェアキッチンの利用者増加を目指し、新たなビジネス創出につながるような活動を推進していくことで、音更町の関係人口創出やUIJターンによる移住、地元企業の採用につなげていきたいと考えています。



昭和商学校Palette

●都市と自然の共生・・・観光

音更町は自然との距離が近く、自然の力を受け入れながら、まち（都市）と共生しているところも魅力の1つです。

十勝の大地にふさわしい雄大な公園「十勝が丘公園」には、直径18メートル、秒針の長

さ10メートル10センチの大きな花時計「ハナック」があります。色とりどりの花が緑の公園とのコントラストと相まってとてもきれいです。また、家畜改良センター十勝牧場では、入口から1.3キロメートル続く白樺並木のダート道が続いており、写真撮影などうってつけな場所で、ドラマや映画のロケ地にも使われています。その他、冬の澄んだ空気の中、音と光を連動させて幻想的な空間を演出し、観光客を魅了しているおとふけ十勝川白鳥まつり「彩凜華[®]（さいりんか）」など、四季を体感できるイベントも多くあります。



十勝川白鳥まつり「彩凜華[®]」

●第13回全国和牛能力共進会北海道大会が音更町で開催されます

5年に1度、和牛の能力と斉一性の向上を目指し、生産・改良上の課題をテーマとして掲げ、時代の要求にかなう和牛を実証展示するとともに、改良成果を競う場として開催される全国規模の共進会で、「和牛のオリンピック」とも称されています。令和9年に北海道で初めて開催される会場として、「種牛の部」に本町が、「肉牛の部」に帯広市が決定しました。令和9年8月26日から30日までの日程で開かれます。

期間中には30万人以上の来場が見込まれることから帯広市や北海道、関係機関と共に準備を進めています。

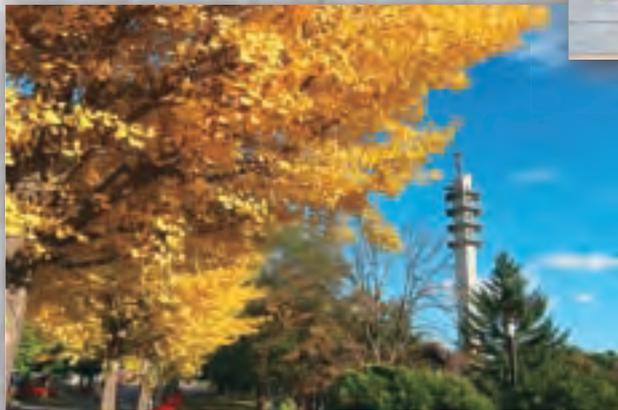
音更町の四季



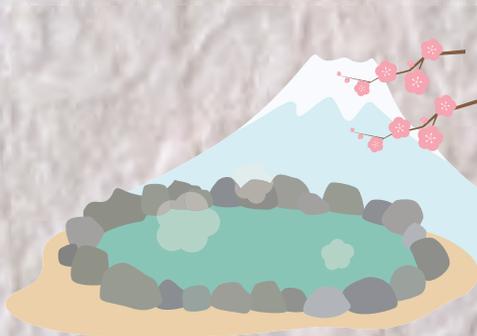
【春】スズラン



【夏】ハナック



【秋】イチョウ



【冬】彩凜華 冬桜